学校番号	４０１

令和２年度　情報科

教科	情報	科目	情報の科学	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	最新　情報の科学　新訂版　（実教出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・実践的・体験的な学習を通して、コンピュータやネットワークについて学び、日常使っている機器（情報端末機器）に対して、理解を深め、正しい使い方を身につける。
・自らの考えや他人の考えをプレゼンテーション等を通じ理解し、コミュニケーションをとる手段としての利用ができるようにする。

２　学習の到達目標

・コンピュータの知識を深める。
・パワーポイントを使ったプレゼンテーションができるようにする。
・アルゴリズムを理解し物事の順序をフローチャートで表現できるようにする。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	情報や情報社会に関心を持ち, 身のまわりの問題を解決するために, 自ら進んで情報及び情報技術を活用し, 社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために, 情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて, 思考を深め, 適切に判断し表現している。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け，目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け，社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況の観察 実習作品 レポート、発表 相互評価・自己評価	学習状況の観察 実習作品 レポート、発表 相互評価・自己評価	学習状況の観察 課題作品 レポート、発表 相互評価・自己評価	学習状況の観察 レポート、発表 相互評価・自己評価

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	情報とコンピュータ	・電気回路をモデルに論理回路について学ぶ。 ・論理積・論理和・否定，真理値表について学ぶ。 ・2 進数の足し算を論理回路で表現した半加算回路について学ぶ。	○	○	○	○	a:論理演算に関心を持っている。 b: 論理的に考えて真理値表を作ったり，演算子を組み合わせて論理回路を表現できる。 c: 2 進数の足し算ができる。 d: 論理演算と論理回路について理解している。	授業観察 実習作品 レポート
	情報とコンピュータ	負の数が補数で表現されること，補数を使った計算について学ぶ。表現と伝達(表現の工夫)	○ ○	○	○ ○	○	a: 例題など積極的に問題に取り組んでいる。 b: 数字を補数で表現できるか c: 補数を用いて計算できるか d: 補数の概念と補数を用いた計算について理解している。	授業観察 実習作品 レポート
2	ネットワークの活用	・検索サイトを用いて，効率よく情報を収集する方法を学ぶ。 ・ネットワークを利用して情報を収集，整理・分析，発表・発信し，評価と改善を行う方法を学ぶ。	○	○	○	○	a: ネットワークを利用して情報を収集することに意欲的に取り組む。 b: ネットワークを利用して情報を収集する手段を選択したり，組み合わせて使う。 c: ネットワークを使って情報を収集できる。 d: ネットワークを利用して情報を収集する方法について理解する。	授業観察 実習作品 発表 相互評価 自己評価
2 3	問題解決のためのコンピュータ活用	・アルゴリズムについて学び，簡単なアルゴリズムをフローチャートで表現できるようにする。 ・順次・選択・繰り返しなどのアルゴリズムの基本構造について学び，フローチャートで表現できるようにする。	○	○	○	○	a: アルゴリズムやフローチャートに興味を持っている。 b: 試行錯誤しながら，フローチャートを作成できる。 c: フローチャートを考える例題などに積極的に取り組んでいる。 d: フローチャートや文章表現について理解している。	授業観察 レポート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。